

【 第21回 女子ジュニア世界選手権 】

2018年6月29日～7月15日 開催地:ハンガリー

試合結果報告 7月7日 (土)

JPN	VS	NED(オランダ)
17	前半	14
17	後半	20
34	合計	34

個人得点

名前	前半	後半	合計
3 高木奈央			0
4 辻野桃佳			0
26 榎和奏			0
27 松浦志織			0
28 並木梨紗	1		1
29 大松澤彩夏			0
31 鈴木姫らら			0
32 金城ありさ	2		2
33 安藤かよこ			0
34 南夏津美			0
35 中山佳穂	5	9	14
36 相澤菜月	7	3	10
37 舟久保朱音			0
39 笠井千香子	1	3	4
40 笠泉里			0
41 金山桃歌			0
42 尾辻素乃子			0
51 吉留有紀	1	2	3
	17	17	34

戦評

4戦目はオランダと対戦。立ち上がりには日本は相澤のミドルで先制、オランダもクロスプレーからのミドルで1点を入れる。その後も日本は、笠井のポスト、相澤、中山のミドル、吉留のポストで得点を重ねていくが、オランダのクイックスタート、二次速攻が防げず、一進一退の攻防が続く。徐々に日本の牽制DFが機能し始め、相手のミス誘い、速攻での得点が増えてくる。GK・榎のファインセーブも相まって、10-6と日本がリードしたところでオランダはたまたまタイムアウトを要請。タイムアウト明けも相澤のゲームメイクにより日本のペースは続き、前半15分12-6とこの日最大の6点差とする。しかし、意地をみせるオランダは二次速攻で簡単に点を取り、12-8と追いつける。ややOFが停滞したかに見られた日本は、前半18分7人攻撃をしかける。これが成功し、金城のサイドで得点する。このままお互いになかなか得点できない時間が続くが、前半27分安藤のポストプレーにより相手選手は1人退場。これにより得た7mTを中山が決めて17-11とする。退場者がいる2分間にリードを広げたい日本であったが、逆に3失点してしまい、17-14で前半を終える。

後半立ち上がり、中山がミドル、相澤のカットインで得た7mTをきっちり決め、19-14とする。この後も相澤のずらしから中山のカットインなどで日本ペースで試合が続くが、退場者をだした間に3失点を喫し、後半12分22-20となったところで日本はタイムアウトを要請。タイムアウト後、日本は7人攻撃を仕掛けて吉留のサイドで加点するが、オランダのクイックスタートによりすぐさま1点を返される。この後も、日本は着実に得点を重ねるが、その度にクイックスタートで得点を返され、一進一退の攻防が続く。後半23分、日本は退場者をだしてしまい、この間に2失点してしまい、29-29とゲームは振り出しに。しかし、この日好調の中山がすぐさま取り返し、30-29とする。オランダも負けじとミドルを決めきり、再び取って取られての繰り返しとなる。後半残り1分32-33とリードを許すが、試合終了残り30秒、並木が7mTを獲得、それを中山が決めて33-33の同点に。ここでオランダはタイムアウトを要請。なんとか守りきり同点で終わらせた日本だったが、残り6秒、オランダのロングが決まり33-34に。万事休すかと思われたが、日本はクイックスタートを仕掛ける。試合終了直前、相澤の13mロングがゴールネットを揺らし、最終スコア34-34の同点で試合を終えた。

報告記者 :

新井翔太